

尾道市立向東中学校 第2学年国語科学習指導案
単元名：メディアと上手に付き合うために
本単元で育成する資質能力：「主体性」「課題解決力」

指導者 尾道市立向東中学校
教諭 郷地 若葉

日 時：令和2年6月23日（火）第2校時
学年・学級：2年2組30名（男子18名 女子12名）
場 所：2年2組教室

教材観

本単元は、学習指導要領第2学年の「読むこと」(1)の「才 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。」、「書くこと」(1)の「目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。」を受けて設定したものである。

本単元で扱う「メディアと上手に付き合うために」はジャーナリスト池上彰による論説文である。筆者は、メディアの特性を理解したうえで、付き合い方について考えるべきだと論じている。

生徒は、日常的にテレビ、新聞、インターネットに接している。特に、今年度は2ヶ月間の休校期間もあり、メディアに触れる機会は多くなり、関心も高まっていると考えられる。そのため、知識や自己の体験と関連づけて、考えをもつことに適した教材だといえる。また、メディアに関する知識は、国語科に限らず、各教科、総合的な学習の時間等、様々な場面で必要となってくる。まず、教材文を読解し、筆者の考えを理解したうえで、実際にメディアに触れる活動をすることで、生徒それぞれがメディアの特性を知り、活用できる力をつけられるような学習ができる教材である。

生徒観

令和元年度「標準学力調査」

教科の正答率

(校内正答率) 75.9

(全国正答率) 67.2

文章の展開に即して内容をとらえることができる。

(校内正答率) 58.3

(全国正答率) 60.1

自分の考えの根拠となる資料について理解することができる。

(校内正答率) 66.7

(全国正答率) 65.3

前年度に行った標準学力調査では、教科の正答率が、全国平均を8.7ポイント上回った。このことから、基本的な学力、活用力ともに概ね定着が図られていると言える。普段の授業からみても、本学級の生徒は、考えることが習慣付いている生徒が多い。また、自分の意見を発言したり、他者に意見を聞いたりすることに楽しさを見出し、学習に取り組む姿がある。各活動や話し合い活動においてもじっくりと考え、自分の考えを明確に表現できる生徒が多い。

前年度に行った標準学力調査の中で、「文章の展開に即して内容をとらえることができる。」「自分の考えの根拠となる資料について理解することができる。」を問う問題では、正答率が低かった。また、今年度の5月に「職業調べ」の学習を行った際にも、インターネットの情報をそのまま使う、引用してくるという場面が多く見られた。メディアを使い分けるという意識、メディアは編集されているものだという意識が薄く、メディアの特性について、考えが不十分であることが考えられる。

2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 同一の話題を扱った新聞, インターネット記事を見て, 編集の意図を考える。 「編集」されていることを念頭においてメディアを利用するとは, 具体的にはどうすることが考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体性 ○課題解決力 	書	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ワークシート
3	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校の情報はどんなメディアで収集できるのかを考える。 発展課題の解決に向けて, 学んだことを整理し, 情報の「編集」がどのような意図によって行われているかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体性 ○課題解決力 	関	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート, 行動観察
4	<ul style="list-style-type: none"> 発展課題について自らの意見をまとめる。 それぞれの考えについて, グループで交流し, 全体討論を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体性 ○課題解決力 	書	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート

本時の学習

(1) 目標

- ・メディアに触れて, 「編集」について考えを持つ。

(2) 観点別評価規準

- ・メディアから得た情報をもとに, 自分の考えをまとめることができている。(書く能力)

(3) 学習展開

学習活動		指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (評価方法)	資質能力
導入 4分	1 前時までの学習を振り返る。			
	○前時を振り返り, 本文の内容を確認する。	◇すべてのメディアが編集されていることを想起させる。		
展開 40分	2 本時のねらいを示す			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">本時のめあて：実際のメディアに触れて, 「編集」について考えをもつ。</div> ○めあてを確認し, 本時の流れを知る。 ○新聞記事・インターネット記事のコピーを読む。	◇難語句の意味を補足する。		○主体性

	<p>○それぞれの記事の論拠をみつける。</p> <p>○意見を交流する。</p> <p>○池上彰氏は、「自分なりの問題意識をもって」メディアを活用する必要があると述べているが、具体的にはどんなことに気をつければよいか。</p>	<p>◇「事実」と「意見」を読み分けるように指導する。</p> <p>◇新聞記事には、「意見」が書かれていないにも関わらず、そこから読み取れるのはなぜか。考えを深めさせる。</p> <p>◇交流して得た意見を、ワークシートに書き足していかせる。</p> <p>◆ヒントカードを作成し、「～から～することに気をつける」という形で書くことを提示する。</p> <p>◇意図的指名も行い、他者の考えと、自分の考えとを対比させることで、考えを深めさせる。</p>	<p>・メディアから得た情報をもとに、自分の考えをまとめることができる。（ワークシート）</p>	<p>○課題解決力</p>
<p>生徒の反応</p> <p>○どのメディアも編集されていると分かったから、情報を収集する際は、編集者の意図を考え、本当の情報は何か、情報を吟味する段階を入れることに気をつける。</p> <p>○メディアは私たちにとってとても身近な存在である。しかし、これまで私はメディアについてきちんと学ぶ機会がなかった。だから、これからはメディアの特性を理解し、メディアを適切に使い分けることに気をつけて、これからよりよいメディア社会を切り開いていきたい。</p> <p>○「メディアと上手に付き合うために」を読んでメディアにはそれぞれ特徴があることを知った。私たちは、日常の中でメディアと共に生活している。今まで、メディアの情報をそのまま鵜呑みにして信じてきたが、これからは今回学んだ「メディアは編集されている」ということを踏まえて一度立ち止まって考えるということに気をつけていきたい。</p>				
<p>3 本時の振り返りをする</p>				
<p>まとめ 6分</p>	<p>○まとめをする。</p> <p>○本時を通して、観点③「自分の成長に関して考え方が変わったか。」について振り返りをする。</p> <p>○振り返りの内容を交流する。</p>	<p>◇本時の学習を通して学んだこと、実生活に生かせそうなことをまとめさせる。</p> <p>◇交流することで、学びの自覚につなげさせる。</p>		